

平成24年度第4回SPODネットワークコア運営協議会 議事次第

日 時：平成24年7月31日（火） 15：45～17：15

場 所：愛媛大学城北キャンパス 法文学部本館2階 中会議室

議 題：

1. SPODにおけるスタッフ・ディベロップメント・コーディネーターの認定について
 - ・スタッフ・ポートフォリオ（阿部 光伸）【資料1－1】
 - ・SPODにおけるスタッフ・ディベロップメント・コーディネーターの名称付与基準について【資料1－2】
2. SPODフォーラムについて
 - ・SPODフォーラム2012の申し込み状況について（学校別）【資料2－1】
 - ・SPODフォーラム2012の申し込み状況について（プログラム別）【資料2－2】
 - ・SPODフォーラム2012チラシ【参考資料1】
 - ・SPODフォーラム2013について【資料なし】
3. 平成25年度における負担金の算定方法について
 - ・平成25年度の負担金算定に係る平成24年5月1日現在の教職員数調査について【資料3－1】
 - ・SPOD加盟校教職員数回答票【資料3－2】
4. 各コア校で実施する新任教員研修について
 - ・第18／19回愛媛大学授業デザインワークショップ実施要項【資料4－1】
 - ・教育力開発基礎プログラム実施要項【資料4－2】
 - ・新任教員研修会「よりよい授業のためのFDワークショップ」実施要項【資料4－3】
 - ・新任教員FDワークショップ案内チラシ【資料4－4】
5. ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ（西四国）の実施について
 - ・ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ（西四国）実施要項【資料5－1】
 - ・ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ（西四国）スケジュール【資料5－2】
6. 愛媛大学夏季FD・SDスキルアップ講座の実施について
 - ・愛媛大学「夏季FD・SDスキルアップ講座」概要【資料6】
 - ・研修プログラムガイド2012抜粋版（愛媛大学担当分）【参考資料2】

7. 高知大学秋季FDセミナーの実施について

- ・高知大学「秋季FDセミナー」概要

【資料7】

- ・研修プログラムガイド2012抜粋版（高知大学担当分）

【参考資料3】

8. 教える仕事に就きたい大学院生のためのワークショップの実施について

- ・「教える仕事に就きたい大学院生のためのワークショップ」実施要項

【資料8】

9. 大学人，社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅡ）の開催について

- ・大学人，社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅡ）実施要項

【資料9】

10. その他

- ・公開シンポジウム「学習意欲を高める授業とカリキュラムデザイン」ポスター【資料10-1】

- ・今後のネットワークコア運営協議会の開催について（案）

【資料10-2】

スタッフ・ポートフォリオ

平成 24 年 1 月 31 日現在

氏名	あ べ みつのぶ 阿部 光伸		生年月日（年齢） 昭和 39 年 11 月 21 日（満 47 歳）	
現住所	〒989-3204 仙台市青葉区 Tel & Fax / 携帯電話			
所属・職名	（学）東北文化学園大学 専門学校・幼稚園事務局 次長			
最終学歴 （卒業年）	東北大学大学院 教育学研究科 総合教育科学専攻 教育政策科学講座 修了（平成 20 年 3 月）			
職歴	年月日	職歴		
	S62. 04. 01	学校法人東北文化学園 東北工科美術専門学校 建築科 入職（教員）		
	H03. 04. 01	同 東北工科情報専門学校（校名変更） 学生指導主任		
	H10. 04. 01	同 東北文化学園専門学校（校名変更） 建築科 科長		
	H15. 04. 01	学校法人東北文化学園大学 東北文化学園大学に異動 学生課課長		
	H18. 04. 01	同 東北文化学園大学 スチューデントジョブ担当課長		
	H18. 11. 01	同 東北文化学園大学 学生課課長		
	H19. 10. 01	学校法人第一藍野学院 健康科学大学に出向 教務部長		
	H20. 05. 01	学校法人東北文化学園大学 東北文化学園大学 教務部長		
	H22. 11. 01	学校法人東北文化学園大学 学園事務局 部長		
	H23. 05. 01	学校法人東北文化学園大学 専門学校・幼稚園事務局 次長 現在に至る		
研修歴	年月日	年月日	研修名・研修内容	
	H01. 12. 12	H01. 12. 22	東北文化学園専門学校「海外研修」（英・仏・西・希）	
	H09. 04. 14	H09. 05. 23	国際ロータリークラブ「研究グループ交換（G.S.E.）」（韓国）	
	H12. 12. 17	H12. 12. 27	東北文化学園専門学校「海外研修」（英・仏・伊）	
	H15. 05. 14		JASSO「東北地区学生指導担当部・課長研究会」（仙台）	
	H15. 07. 02	H15. 07. 04	私大協「学生指導主務者研修会」（東京）	
	H15. 12. 08	H15. 12. 10	学生相談学会「全国学生相談研修会」（東京）	
	H16. 05. 12		JASSO「東北地区学生指導担当部・課長研究会」（秋田）	
	H16. 10. 20	H16. 10. 22	JASSO「全国学生指導研究集会」（東京）	
	H17. 05. 11		JASSO「東北地区学生指導担当部・課長研究会」（青森）	
	H17. 07. 06	H17. 07. 08	私大協「学生指導主務者研修会」（神戸）	
	H18. 07. 70	H18. 07. 09	大学セミナーハウス「大学職員研修会」（東京）【発表】	
	H18. 07. 29	H18. 07. 30	FMICS「FMICS シンポジウム 2006」（東京）	
	H19. 0. 09		JASSO「東北地区学生指導担当部・課長研究会」（山形）	
	H19. 07. 04	H19. 07. 06	私大協「学生指導主務者研修会」（浜松）	
	H19. 07. 07	H9. 07. 08	FMICS「FMICS シンポジウム 2007」（東京）【発表】	
	H19. 07. 21		私大連「私立大学フォーラム」（京都）	
	H19. 08. 01	H19. 08. 03	JASSO「学生指導担当者研修会」（仙台）【運営委員】	
	H19. 11. 10		私大連「私立大学フォーラム」（仙台）	
	H20. 05. 22		学校リスクマネジメント推進機構「保護者クレーム対応の“技術”」（東京）	

	H20. 06. 21 H20. 07. 19 H20. 10. 15 H20. 10. 19 H21. 03. 13 H21. 06. 29 H21. 07. 15 H21. 10. 13 H21. 11. 16 H22. 02. 20 H22. 03. 12 H22. 06. 10 H22. 08. 23 H22. 08. 25 H22. 09. 29 H22. 10. 23 H22. 10. 30 H22. 11. 08 H22. 12. 16 H22. 12. 22 H23. 03. 07 H23. 08. 05 H23. 08. 23	H20. 10. 17 H20. 10. 17 H21. 03. 14 H21. 07. 17 H21. 10. 15 H22. 02. 21 H22. 03. 13 H22. 08. 28 H22. 12. 17 H22. 12. 23 H23. 03. 08 H23. 08. 06 H23. 08. 27	私大連「私立大学フォーラム」(仙台) 私大連「私立大学フォーラム」(京都) 私大協「教務部課長研修会」(神戸) 大学コンソーシアム京都「SDフォーラム」(京都) 東北文化学園大学「サークルリーダー研修会」(山形)【講師】 高等教育情報センター「校友会・後援会の現代化と連携強化」(東京) 私大協「学生指導主務者研修会」(大阪) 私大協「教務部課長研修会」(浜松) IDE「IDEセミナー」(仙台) 立命館大学「学生FDサミット・2010 冬」(京都) 東北文化学園大学「サークルリーダー研修会」(山形)【講師】 SPSS「アンケート調査入門」(東京) 同志社大学「IRワークショップ」(京都) 「SPODフォーラム2010」(松山) 日本高等教育開発協会「新任教員研修プログラムの戦略的構築」(東京) 私大連「私立大学フォーラム」(仙台) 大学行政管理学会「Job Description を作る」(東京) IDE「IDEセミナー」(仙台) SPOD「人材育成ビジョン作成WS」(大洲) SPOD「大学職員能力開発セミナー」(東京) 東北文化学園大学「サークルリーダー研修会」(山形)【講師】 PBL研究所「PBLセミナー」(山梨) 「SPODフォーラム2011」(松山)【講師】
免許・資格等	年月日	免許・資格の種類	
	S59. 02. 16	普通自動車免許	
	S62. 03. 31	高等学校教諭二級普通免許状(工業)	
	H15. 08. 20	甲種防火管理者	
	H23. 11. 08	自衛消防業務新規講習修了	
発表等	年月日	内容	
	H12. 11. 24	【講演】「建築は茶の心」,(社)宮城県測量設計業協会、『第2回経営者研修会』,仙台市青年文化センター	
	H18. 07. 07	【講演】「スチューデントジョブをととした学生支援とその方向性」,(財)大学セミナーハウス、『第15回大学職員セミナー』,八王子セミナーハウス	
	H19. 07. 07	【講演】「StudentJOBを基軸にした学生支援～学職協働から教職協働へ～」,高等教育問題研究会(FMICS),『FMICSシンポジウム』,工学院大学	
	H19. 09. 08	【講演】「友情を深め,新世代を育てよう」,(財)国際ロータリークラブ,『第9回日韓親善会議』,ホテル青森	
	H20. 03. 25	【論文】「ユニバーサル化時代の大学と大学職員ー職域改革と教職協働ー」,東北大学教育学研究科修士論文	

	H20. 12. 10	【寄稿】「スチューデントジョブ制度～東北文化学園大学における修学支援の一つのかたち～」，日本学生支援機構編『大学と学生』，2008 年 12 月号（2008. 12. 10 発行）
	H21. 07. 29	【講演】「東北文化学園大学 禁煙活動アクションプランについて」，全国大学保健管理研究集会，『東北地方研究集会』，エスポワールいわて
	H22. 12. 16	【講演】「東北文化学園大学におけるスチューデントジョブ制度の取組みについて」，愛媛大学，『職員研修会』，愛媛大学
	H23. 03. 01	【講演】「大学の禁煙化運動について」，東北禁煙指導研究会，『第 11 回東北禁煙指導研究会』，宮城県民会館
	H23. 08. 25	【講演】SPOD フォーラム 2011「事例から学ぶ危機管理～東日本大震災の被災から授業開始まで～」，愛媛大学，四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

未来予想図

【大学に職員として就職した経緯】

大学職員となる前は，グループ校の専門学校建築科教員として勤務していたが，平成 13 年に教務部長から，第一期生を輩出し学生支援の更なる充実化が喫緊の課題となっていた東北文化学園大学への協力依頼があった。一度は断ったものの，翌年に再度の打診があり，大学においても学生と関わる業務への配属を要望し異動を承諾した。異動直後は，教えることができなくなったことへの寂しさに悩んだが，正課外活動において学生と関わる事ができたこと，アプローチは異なっても学生に教授できる環境下にあることに気づき前進することができた。

また，管理職として建築科科长では経験できなかった「人材育成」を，課長・部長職で経験できていることは，組織人としての自覚と学園への愛着度が高まるきっかけとなった。さらに，8 年の大学勤務を経て，古巣である専門学校に加え幼稚園の運営に関われることは，不安もあるが楽しみの方が勝っている。

【成長記録】（今までの成長記録）

- ① 高等教育政策に関する知識を修得し，説明できるようになった
- ② スタッフ・デベロップメントに関する研修プログラムを立案できるようになった
- ③ 本学の取り組み事例の紹介を頼まれるようになった
- ④ 学生リーダー研修会での講師を頼まれるようになった
- ⑤ 新任教員研修会の企画・立案ができるようになった

（2010-11 年の成長記録）

- ① 初めて参加する SD 研修会でも顔見知りの職員がいるようになった
- ② 選択理論，メンタリング，英国 PG CHE，Job Description を学んだ
- ③ 日本高等教育学会，国立大学マネジメント協会，IDE に入会
- ④ 自己点検自己評価報告書の「学生」「社会連携」「特記事項（全文）」を執筆し，外部認証評価においてヒアリングにも対応した
- ⑤ 東日本大震災対策本部メンバーとして，復旧・復興・学生支援策の構築に努めた

⑥ SPODフォーラムの講師を務めた

⑦ 科研費（奨励研究）に採択された

【今のわたし】

専門学校・幼稚園事務局 次長として、専門学校と幼稚園の運営を統括。これまでも「すべては学生のため！」を掲げスタッフの成長を支援してきたが、専門学校教員は生活指導まで担当しており、学生支援をキーワードにしての「教職協働」を推進できるものと確信している。また、一条校である幼稚園では、豊かな体験教育をもって人格形成の一端を担えることと、臨界期前の教育について学べることを楽しみにしている。

【今年のビジョン】

これまで吸収したスキルを活かし、多くの学生・教職員を対象とした研修会「アカデミック・デベロップメント」を企画・立案する。また、専門学校教員を対象とした研修会を開催する。

【今年のゴール】

SD・FDを意識しながら業務を遂行していきたい。専門学校においても外部評価が求められているが、単に教学面の評価に留まらず、学生の成長を客観視する機会を設ける。

【MYビジョン】

（組織の一員として）

専門学校・幼稚園事務局の次長として専門学校の発展のため、学生の活躍の場を設け、それを広く社会にアピールしたい。また、2万人を超す卒業生の愛校心の呼び起こしを図りたい。さらに、SPOD-SDで学んだスキルを活かし、スキルアップ、キャリアアップ、マインドアップのお手伝いをしたい。そのためにも「気づき」を促せるような人間関係を構築し業務に取り組みたい。また、人事発令の目的である専門学校の短大化を実現するための準備を進める。

幼稚園としては、認定こども園への移行の適否を判断できるように情報を収集し、来たるべきときに備える。

（個人として）

高校野球に審判として関わり続け、叶わない目標かも知れないが甲子園球場でジャッジしたい。それが、奥島孝康高野連会長（元早稲田大学総長）の時代に叶えば最高である。また、ふり返りを重要視するプロジェクト・アドベンチャーの指導者資格を取得したい。

【MYゴール】

（組織の一員として）

教員と職員の接着剤となり、学生・保護者・卒業生が常に身近にいる学園をつくる。

（個人として）

高校野球を通して若者（高校生、審判員）の育成に関わると共に、茶道を通じて修道を続け、文武両道の人材育成に終生携わりたい。

2010－11 年の記録

- ① 全学共通教育検討委員会・教育支援センター運営検討委員会の委員として教育支援センターの設置を求める報告書を作成した
- ② 平成 19～21 年度の F D 活動を記録した報告書に寄稿した
- ③ 平成 22 年度 F D 研修会（講演会）の講師招聘，当日の運営・接遇を担当した
- ④ サークルリーダー研修会で講師を務めた（2010. 2011）
- ⑤ 新任教員研修会のプログラムを企画・立案し実施した
- ⑥ 自己点検・自己評価報告書の「学生」「社会連携」「特記事項（全文）」を執筆した
- ⑦ 医療福祉フォーラムの企画立案に関わり，当日の運営スタッフを統括した
- ⑧ 学内 S D 研修会を主幹し，若手職員による企画・立案を指導し，運営の支援を行った
- ⑨ 日本高等教育開発協会「新任教員研修プログラムの戦略的構築」に参加し，これまで展開してきたプログラムの構築方法に間違いが無かったことを確認した
- ⑩ 外部認証評価における実地調査のヒアリングに対応した
- ⑪ 大学行政管理学会「Job Description を作る」（東京）に参加し，職務記述書作成の基本を学んだ
- ⑫ 科研費「奨励研究」に採択された（教職協働を実現する P B L を利用した大学職員の能力開発に関する研究）
- ⑬ 愛媛大学職員研修会でスチューデント・ジョブの取組みを発表した
- ⑭ 愛媛大学「人材育成ビジョン W S」（大洲）に参加し，ビジョンの組立て方を理解した
- ⑮ SPOD-SD プログラム「大学職員能力開発セミナー」（東京）に参加し，S D プログラムの開発手法と SPOD の取組み内容を理解した
- ⑯ 東日本最震災では対策本部のメンバーとして復旧・復興・学生支援に尽力し報告書を上梓した（文科省等に提出）
- ⑰ S P O D フォーラム 2011「事例から学ぶ危機管理～東日本大震災の被災から授業開始まで～」の講師を務めた

職歴・業務内容・業績等

S62. 04. 01 (22-24 歳)	学校法人東北文化学園 東北工科美術専門学校に採用 建築系学科の教員（身分的には助手）として勤務開始。初年度に担当することになった科目は「建築材料実験」「図学」「立体構成」。同一科目を複数クラスにて担当。自学自習のため，朝 7 時に登校，夜 11 時に下校の毎日。2 年目の S63 年に建築デザイン科の新入生を担当。ホームルームを通じ修学指導も行う。
H 元. 04. 01 (24-26 歳)	専門学校の教員資格を取得 2 年の実務経験を経て教員の資格を取得。（専修学校設置基準第 18 条 2 項）正式な教員となると共に担任クラスが卒業年次となり，就職指導も担当。好景気に突入しつつあった時期でもあったため，就職率 100%を達成した。
H03. 04. 01 (26-33 歳)	東北文化学園専門学校 学生指導主任（兼務） 仙台駅前から住宅地へ移転したことに伴い，自治会活動の活性化と市街地ではないことによる問題（迷惑駐車，アパート生活での問題）対応のため，学生指導主任の職が設

	置され、工科系担当として拝命。以来、建築科教員としての業務に加え、学生指導（生活指導中心）と自治会指導が担当業務として加わった。
H10. 04. 01 (33-38 歳)	東北文化学園専門学校 建築科科长 前任の科长（55 歳）が執務中脳出血にて倒れ、治療のため休職することとなり、8 名の建築科教員の中から若輩ながら校長の指名で科长となった。諸先輩をおいて科长に氏名された理由については、正課では対外活動（学生作品展、講演会等々）を積極的に展開し、学校・学生と社会・企業の接点を設け、学校をアピールし入学希望者の獲得と学生の就職を推し進めたことと、正課外（自治会）活動を通じた学科の枠を超えた学生指導を評価してとのことであった。好きで自治会活動に関わっていると揶揄されることもあったが、評価されたことを大変うれしく思った。
H15. 04. 01 (38-41 歳)	東北文化学園大学 学生課長 平成 13 年の年末、大学事務局長から平成 14 年 4 月付けで大学事務局への異動の可否について内々の確認があった。専門学校での事業が遂行途中だったこともあり異動は難しい旨を回答した。しかし、平成 15 年 1 月、再度打診があり、組織の再構築への協力を強く求められ、学生と関われる部署への配属を考慮いただくことをお願いし受諾した。 教員とは異なる立場とはなったが、異動早々、入学式、ガイダンス、フレッシュマン・キャンプ等々で学生と接し、学生支援に関われる喜びを再認識した。そして、学生支援こそ教職協働の場であり、職員も教育者とならんことを課員にも理解してもらうことを当面の目標に掲げた。 また、所掌団体には扶助会（保護者を会員とする後援会組織）があり、保護者との定例会議を通じ、家庭と大学の接着剤の役割を担えたことは、大きな経験となった。 平成 16 年 1 月、元理事長の脱税に端を発し大学存続の危機に陥った際、学生と保護者、そして教職員の三位一体となる存続活動が展開されたが、その事務局を所掌できたことも貴重な経験となった。特に存続を求めた 6 万を超える署名を保護者・学生と共に文部科学省（加茂私学部長）、宮城県（浅野知事）、仙台市（藤井市長）に直接渡したことは思い出深い。 学生・保護者との三位一体となる活動が実り、大学の存続が決まったが、大きな瑕疵（負債）が残った。民事再生手続きによって 290 億円を超える負債は 60 億円にまで減ったが、その返済を 10 年で行う再生計画であるため経常経費の縮減が求められた。また、学生の修学支援を充実させることを再生のアピールにすることが掲げられ、外部委託業務の見直しを行い、清掃業務の経費（1 億 2 千万円）を原資とした有償ボランティア制度（スチューデント・ジョブ＝S J）を平成 17 年度に構築した。
H18. 04. 01 (41 歳)	東北文化学園大学 スチューデントジョブ担当課長 S J は、新年度と同時に参加学生を募りスタートした。（ちなみに、S J に教員は一切関わっていない。）126 人で開始した事業であるが、平成 22 年度には 600 名を超える登録者を有す活動になったことは感慨深い。
H18. 11. 01 (41-42 歳)	東北文化学園大学 学生課長 S J 活動が軌道に乗ったこともあり、空席となっていた学生課長に戻り、S J も学生課が所掌することとなった。平成 15 年に学生課に異動となった際「職員も教育者となら

	ん！」と掲げたが、S Jは担当職員が教育していたことから、統合されたことをきっかけに学生課員も教育者としての意識を必然と持つことになったことは、当初の目標を達成したとも思える。
H19. 10. 01 (42 歳)	健康科学大学 教務部長 民事再生により経営法人が代わり順調に再生を果たす中、新法人が有する健康科学大学（平成 15 年 4 月開学／山梨河口湖）の組織再構築のため、出向することとなった。富士山麓にある環境に恵まれたキャンパスで、ほぼ毎日富士山を見ながらの仕事は、辛いものも多かったが非常にやりがいのあるものだった。 赴任時は、お手並み拝見に近い視線を感じたものであるが、早々、2 年越しの懸案となっていたセンター入試の導入を実現したことを契機に、それは信頼の目にかわり、以後の業務を円滑に進めるきっかけとなった。その後、およそ半年で、各種規程、業務フローの整備、入試の実施マニュアルの作成、正課外活動、後援会の活性化等を図った。
H20. 05. 01 (42-45 歳)	東北文化学園大学 教務部長 当初は、4 月 1 日付けにて出向を終える予定であったが、新年度早々に離任することの影響を鑑みて、授業も軌道に乗るまでの延長を申入れ、5 月 1 日付けでの帰任となった。出向先での取組みが評価され、帰任後は事務局長が兼務していた当職に昇任。それまでの学生支援を主とする業務から、教学全般を統括すると同時に、FD・SDについても主担当となった。 FDでは、授業評価アンケート、公開授業、FD講演会などの計画・実施に関わった他、新任教員研修会を企画運営した。 SDでは、法人内のグループ校の職員を集めたSD研修会（3 日間）を平成 19 年から毎年企画・運営してきた。平成 22 年度は、若手職員有志を募り、実施企画の立案、理事長へのプレゼン等に関わらせ、SDコーディネーター的役割を担った他、新任職員研修も担当している。 また、平成 21 年 5 月から休会状態だった同窓会組織を再度構築し、同窓名簿の編集、会報の発行、ホームページの公開など見える化に取り組んだ。
H22. 11. 01 (45-46 歳)	（学）東北文化学園大学学園事務局 部長 民事再生で 60 億円に圧縮された債権の弁済が残り 20 億円となり、目処がたったこともあり、法人運営の抜本的見直しが行われ新設された学園事務局に異動となった。ここでは、グループ内で沈滞気味の専門学校と拡大契機にある幼稚園の再構築を担うこととなり、学校種と規模の違いはあるが、学校運営の全てを担える職位に就き、多くを学べる期待に胸を膨らませている。
H23. 05. 01 (46-47 歳)	（学）東北文化学園大学専門学校・幼稚園事務局 次長（兼務） 3. 11 に発生した東日本大震災では、対策本部メンバーとして学生安否確認班（大・専・幼全学校種）の代表を務めたほか、支援を要する学生の情報を収集し、G.W. 前に見舞金支給を実現した。 また、大学・専門学校共催の復興支援フォーラム及び学生アイディアコンペを企画し実現した。

地域社会での活動等

H04. 07. ～ H09. 03.	建築と子供たちネットワーク仙台に所属し、米国で開発された「Architecture in Education」を利用した総合学習の支援を行った。実績としては、仙台市の教育モデル校である仙台市立東二番丁小学校でのモデル授業を経て、米国から講師を招聘したセミナー等を開催した。実施したプログラムは、「ねずみの家を作ろう」「未来のまちをつくってみよう」等。これら企画の実行員として従事したのみならず、学生をスタッフ（TA的）として参加させるため事前の指導等もおこなった。
H05. 11. ～ (継続中)	元々の専攻が「住宅設計」であることから、住宅の原型である数奇屋建築に興味があり、その究極の空間である「茶室」を知るため『茶道』の修道を考えていた。28 歳のとき、縁あって運命の師とめぐり合い、茶道が建築・芸術・哲学を含む総合体であることを学んだ。裏千家（青年部）在籍中は、仙台七夕祭、市民茶会、こども病院慰問等の様々な機会です茶（一服のお茶を差し上げること）を行った。 ＊
H09. 04. ～ (継続中)	仙台で唯一の阿波踊りの連に鳴り物として参加している。毎年、仙台七夕祭りに合わせ徳島市から表敬訪問があり、その歓迎式典で使節団（阿波踊りの有名連も参加）を迎え入れ、共に七夕パレードに参加し祭りを盛り上げている。また、平成 17 年度から知的障害者の運動会「パロリンピック」のフィナーレに参加し大会を盛り上げている。
H11. 04. ～ (継続中)	宮城県高等学校野球連盟附属審判団に所属し、審判委員としてグラウンドに立っている。10 年目となる平成 21 年 6 月、福島で開催された東北大会（現西武の菊池雄星最後の東北大会）に派遣審判員として参加し、3 日間で延べ 5 試合に出場した。
H13. 04. ～ H15. 3.	県主催事業「宮城県森林インストラクター」として登録。（1 年間の養成講座を受講のうえ試験に合格し認定。）初年度は、県民の森等を会場に開催される観察会、下草刈り等に参加。その後、ゼミ学生と共に林業家の育林事業に協力。また、インストラクター養成講座の代表幹事の推薦を受け、「森林との共生を考える会 in みやぎ」の理事に就任。任期 2 年の中で、国産材（スギ、ヒバ等）を利用した住宅づくりの啓蒙活動に協力した。 得たもの 常に教育では「言って教え、やって見せ、褒めてやらねば！」と意識していたにも関わらず、茶道を学び始めた頃、教員としてテクニックを教えることに慣れてしまい“何故できない！”“やらない！”と学生を見ていたことに気付かされた。それ以来、その背景を説明することと、“はじめは出来なくて当然、しかし君だったら出来る！”と常にエールを送る気持ちでいる。

私というひと

これまでの自分	経験してきた業務	専門教育（建築），学生指導，学生支援，修学支援制度構築，学校運営，FD，SD
	自分が専門と考える業務	学生に対する支援，人材育成（SD/FDの実施含）
	語学力	英語（ 1 2 3 4 5 ） その他の外国語（ 韓国語 ）
		TOEIC 点 英語検定 級
	趣味	茶道（裏千家，茶名「宗伸」）
	特技	行事の企画・運営，スキー（競技系），家事全般
	ボランティア活動	高校野球審判（所属「宮城県高等学校野球連盟付属審判団」） 宮城県森林インストラクター，他
	感動経験・印象に残る出来事	余命3ヵ月と診断された茶道の師が，その半年後に予定されている茶会の開催を目標に毎日を過ごされ，無事に当日を向かえ3百名を越すお客の対応をされた姿を間近に見て支えられたこと。
	健康状態	良好
	長所・短所	〈長所〉相手への気遣いができ，社交性があること 〈短所〉多くの物事に興味を持ちすぎること
苦手（嫌い）なこと	媚びること 人の陰口をする（聞く）こと	
今の自分	現在の職務（エフォート）	事務局次長として専門学校と幼稚園の事務分掌を統括。大学教務部長の経験を活かし専門学校教学運営の合理化と再構築を課題としている。（専門学校運営 40%，人材育成 40%，規程の整備 10%，学生自治会対応 10%）
	心がけていること	“全ては学生のために！”を掲げ，これを常に発信することを意識している。
	現在の目標	職員と教員の接着剤となる「第3の人材」になること。
	将来の目標	学校（大学・専門学校）の運営に直接関わること。 退職後は，幼稚園の施設維持業務に就きたい。
これからの自分	今後経験したい業務	SD/FD担当者の育成とIRを担当したい。
	希望するエフォート	人材育成 60%，データ分析 20%，調査・研究 20% （究極の教職協働は，教員は教育と研究，職員は学生支援と学校運営に専念し，アプローチは違ったとしても学生を育て社会に輩出することと考える。そのために教職員が同じベクトルで学生と向合うよう促したい。その為に必要なスキルを身に付けたい。）
（今の自分があるのは） 大学卒業後，専門学校教員として勤務し，専門教育・学生支援・学科運営を担ったのち，大学職員となったことが非常に大きく影響している。また，妻の存在が多少ながらも影響している。		
（家庭の特殊事情） 妻のみ。母は近くに一人で住んでいるが高齢なため居住形態を思案する必要がある。		

平成23年3月10日
ネットワークコア運営協議会決定

SPODにおけるスタッフ・ディベロップメント・コーディネーター の名称付与基準について

【Staff Development Coordinator】

SPODにおけるスタッフ・ディベロップメント・コーディネーター（以下「SPOD-SDC」という）の名称付与基準について、以下のように定める。

SPOD-SDCの名称は、大学人、社会人としての基礎力養成プログラムの全科目を修了し、単位認定を受けた職員又はSD専門部会が同等の能力があると認めた者とし、同等の能力とは次のとおりとする。

1. SPOD-SD（又は自大学におけるSD）講師となることができる。
2. 職員のキャリアプランニングをサポートすることができる。
3. 大学等における職員人材育成ビジョンの構築の支援ができる。
4. 大学等におけるSDプログラムの企画・立案ができる。
5. スタッフ・ポートフォリオを作成でき、その有益性を説明することができる。

平成 24 年度 第 19 回 愛媛大学授業デザインワークショップ実施要項

平成24年7月18日改訂

1. 主 催

愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室（教職員能力開発拠点）

「愛媛大学授業デザインワークショップ」は『四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)』事業の一環である。

2. 期 目

第19回 平成24年9月5日(水)～9月6日(木) 国立大洲青少年交流の家

※集合・出発時刻 1日目 8:00 愛媛大学城北キャンパス正門前集合
 8:10 出発（マイクロバスで移動）

※解散時刻 2 日目 15:20 愛媛大学城北キャンパス正門前解散

3. 場所

国立大洲青少年交流の家

〒795-0001 愛媛県大洲北只 1086 電話 0893-24-5175

URL:<http://ozu.niye.go.jp/index.html>

4. 参加対象者(一度参加した者は除く)

- 1) 一昨年度から今年度にかけて大学等に採用された、授業担当または担当予定の教員（授業担当経験 5 年以上を除く）
- 2) 参加を希望する教員

5. 実行委員

松本 長彦（実行委員長，教育・学生支援機構長）

小林 直人（教育企画室長）

佐藤 浩章（教育企画室副室長）

山田 剛史 (教育企画室准教授)

大竹奈津子(教育企画室助教)

6. ワークショップの目的

授業を担当するにあたって必要となる基礎的な知識と技術を学びます。具体的には、授業の構想・設計・実施・評価に関わる一連の過程をグループ作業として体験し、参加者相互の話し合いを経てそれに関する能力を身につけます。

7. ワークショップの目標

- 1) 適切な目的・目標設定ができるようになる。
- 2) わかりやすいシラバスを書けるようになる。
- 3) 様々な授業方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになる。
- 4) 様々な成績評価方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになる。
- 5) 学生参加型のグループ作業を、自らの授業で導入することができるようになる。

8. 研修形態

- 1) 体験型研修です。複数のセッションに分かれて、ミニ講義とグループ作業を繰り返します。
- 2) 異なる学部・教員が、普段着で肩書きなしの対等な意見交換をすることで、学習効果を高めます。
- 3) 研修自体がグループ学習形式であり、学生参加型授業を体験します。

9. その他

- 1) 『愛媛大学 FD ハンドブック もっと!!授業を良くするするために』第一巻(黄色い冊子)をテキストとして使用します。お手元がない方は、当日会場でお渡しします。
- 2) 研修が長時間に渡りますので、普段着でお越しください。
- 3) 宿泊しますので、洗面道具・タオル・寝間着(パジャマ)・虫さされなどの常備薬、懐中電灯等

をご準備ください。

- 4) 旅費については、食事代、レクリエーション費等(5,000 程度)は、当日会場にてお支払いいただくことになります。詳細については、おってご連絡いたします。

※キャンセルされる場合は一週間前までにご連絡ください。ご連絡がない場合は、参加費を請求する場合がございますのでご了承ください。

- 5) 現地までは、原則として、愛媛大学から出発するマイクロバスでの移動をお願いします。

- 6) 当日、カメラとビデオカメラでの撮影を行うことがありますのでご了承ください。

- 7) 修了証書は、全日程に参加された方のみに授与されますので、あらかじめご了承ください。

10. お申し込み・問い合わせ

各大学担当窓口にお申し込み下さい。

＜愛媛大学問い合わせ先＞

E-mail : natuko.otake.mc@ehime-u.ac.jp TEL : (089)927-8922 (担当 大竹)

11. プログラム日程

第Ⅰ部 1日目（朝・昼・夕）プログラム

9:30 現地到着

(敬称略)

時刻	内容
9:30-9:40	(1) オリエンテーション ・研修の目的・目標の確認 ・スタッフ紹介とお願い
9:40-10:05	(2) アイスブレイキング ・自己紹介 ・グループワーク
10:05-10:45	(3) 講義Ⅰ「シラバスの書き方」 ・目標設定の立て方 ・授業計画の立て方
10:45-12:00	(4) グループワークⅠ「共通教育科目の開発Ⅰ」 ・目標設定 ・授業計画 ・シラバス作成
12:00-13:00	集合写真撮影・昼食・休憩
13:00-13:40	(5) 講義Ⅱ 「何が学生の学びを促進するのか？」

13:40－14:20	(6) 講義Ⅲ「様々な授業方法」 ・ 講義形式のメリット・デメリット ・ 双方向型授業のコツ ・ 体験型授業 ・ 参加型授業
14:20－14:30	休 憩
14:30－15:00	(7) 講義Ⅳ「よりよい成績評価の仕方」 ・ 成績評価の目的 ・ 評価の方法と評価対象
15:00－16:00	(8) グループワークⅡ「共通教育科目の開発Ⅱ」 ・ 授業計画と評価計画
16:00－16:10	休 憩
16:10－17:25	(9) 中間発表 ・ 発表 3 分 ・ コメント 12 分
17:25－18:00	(10) グループワークⅢ「共通教育科目の開発Ⅲ」 ・ 授業計画案作成

第Ⅱ部 1日目（夜）プログラム日程

時刻	内容
18:00－19:00	夕食
19:00－21:00	(11) グループワークⅣ「共通教育科目の開発Ⅳ」 ・ 授業計画案作成
21:00－21:30	交流会
21:30－	自由時間・お風呂

第Ⅲ部 2日目（朝・昼）プログラム日程

時刻	内容
7:30－8:30	朝食
8:30－10:30	(12) グループワークⅤ「共通教育科目の開発Ⅴ」 ・ 役割決定 ・ 授業の練習
10:30－12:00	(13) ミニ授業（導入の10分） ・ 授業紹介 3分 ・ ミニ授業 10分 ・ 討議・検討 15分
12:00－12:30	(14) 閉会式 ・ グループ作業の振り返り（学んだことは何か？どう実践に活かすか？） ・ 修了証書授与 ・ 閉会の言葉
12:30－13:30	昼 食

13:45 現地出発

平成24年度「教育力開発基礎プログラム（T-SPOD）」

実施要項

1 目 的

平成24年度徳島大学全学FD推進プログラム実施計画に基づいて実施する教育力開発基礎プログラムを、SPOD徳島県下の加盟校（T-SPOD）に開放し、本事業の取り組みである、教育の質向上及び問題解決のための相互交流と日常的な教育改善のための研修「教育力開発基礎プログラム」を実施します。

2 目 標

1. FD活動の理念，活動計画を理解する
2. 授業を計画し，実施し，評価する方法を体得する
3. 授業研究の仕方を理解し，実践できるようにする
4. FD参加者同士の仲間づくりをする

3 概 要

このプログラムでは大きく分けて，授業設計と教育技術について学んでいきます。主な活動内容は，シラバスと授業計画の作成，模擬授業です。体験を通して，授業の目的，到達目標の設定，授業実施の留意点，評価方法等について理解し，具体的な授業計画を立て，模擬授業を実施します。これらの活動を通してご自身の授業について考え，振り返ることで，実践的な教育力の向上を目指します。（シラバスは研修前に一度作成頂くことになります。）

4 実 施 日 平成24年8月31日（金）・9月1日（土）

5 実施場所 共通教育棟6号館201（徳島大学大学開放実践センター2階）

*参加人数によっては教室を変更する場合があります

6 プログラム （詳細検討中）

7 対 象 者 徳島大学

- ・学外より，講師または准教授採用後1年以内の教員
- ・学内で，助教から講師または准教授昇任後1年以内の教員
- ・学部から推薦を受けた者（助教及び教授等）
- ・平成23年度「教育力開発基礎プログラム」欠席者
（ただし，所属が学部以外のセンター等，病院の場合，及びプロジェクト採用などの場合は除く。）

【参加免除について】以下に該当する場合、参加が免除されます。

- ①学外で同様の研修を受けた場合（他大学等での研修修了者については，研修内容等がわかる資料を提出の上，個別に対応する。）
- ②担当する授業がない場合
- ③診療業務を主に担当している場合

SPOD*徳島県の大学・短大・高専及びその他SPOD加盟校

*SPOD＝四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

8 参 加 費 無料

9 主 催 徳島大学 大学教育委員会・FD専門委員会
四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）

教育力開発基礎プログラム（案）

第1日（2012年8月31日・金曜日）

集合場所：共通教育棟6号館201（徳島大学大学開放実践センター2階）

時 刻	内 容	講師・担当者	備 考
9:00-9:30	・受付（共通教育棟6号館201） ＊9:20までにお集りください		7:00AM 徳島市に「大雨警報かつ暴風警報」または「洪水警報かつ暴風警報」が出ていたら中止
9:30-10:00	（1）オリエンテーション ・大学教育、FD、SDへの期待 ・研修のねらいと意義 ・進め方とスタッフ紹介	川野卓二（進行） 副学長（教育担当） 高石喜久 FD専門委員会委員長 日置善郎	教室：6-201
10:00-10:30	（2）アイスブレイク「忘れられない授業」 参加者自己紹介・交流	吉田博	教室：6-201
10:30-11:40	（3）WS「質の高い授業を目指すためには？」 理想の授業と現状から授業の課題を探る	香川順子	教室：6-201
11:40-12:40	休憩 各自で昼食		生協食堂・売店営業
12:40-14:45	（4）講義・ワーク「よりよい授業実施のために」 ・授業設計と評価 ・シラバス、授業計画書の検討・修正 ・模擬授業説明	川野卓二 宮田政徳 香川順子	教室：6-201
14:45-15:00	休憩		
15:00-17:40	（5）グループワーク「模擬授業・授業検討会」 （4人グループで実施） ・模擬授業の実施（撮影） 一人15分以内 ・映像を基に検討会 一人20分 →チェックリストを基によかった点、改善点等を検討する ・2日目の模擬授業代表者の選出と役割分担を決定	各班司会：FD委員 ワーク支援： スタッフ全員	教室：各班グループ 部屋へ移動 第1講義室（1階） 第2講義室（1階） 会議室（1階） コンピュータ教室（1階） ゼミ室（2階） インテリジェントラボ（3階）
18:00-20:00	交流会（任意参加）	吉田博	生協食堂2階

第2日（2012年9月1日・土曜日）

時 刻	内 容	講師・担当者	備考
9:30-10:00	・集合、模擬授業準備 (教材印刷が必要な場合は9:00 集合)	スタッフ	教室：6-201
10:00-12:00	(6) 模擬授業実施 (前半) (グループ代表による模擬授業) A 班 (10:00-10:30) B 班 (10:30-11:00) C 班 (11:00-11:30) D 班 (11:30-12:00)	司会：吉田博 コメンテーター： FD 委員 支援：スタッフ全員	教室：6-201 〈模擬授業実施手順〉 ・模擬授業・授業検討会報告 (代表より2分) ・選出理由(班メンバーより3分) ・模擬授業 (15分) ・質疑応答(5分) ・交代(5分)
12:00-13:00	休憩 昼食 (各自で) *生協休業		
13:00-14:00	模擬授業実施 (後半) (グループ代表による模擬授業) E 班 (13:00-13:30) F 班 (13:30-14:00)		
14:00-14:10	休憩		
14:10-15:10	(7) プログラムのまとめ ・模擬授業のまとめ ・講評 ・授業コンサルティング、 ティーチング・ポートフォリオについて ・修了証書授与 ・アンケート ・おわりの言葉	香川順子 副学長 (教育担当) 高石喜久 川野卓二 FD 専門委員会委員長 日置善郎	教室：6-201

平成 24 年度香川大学新任教員研修会
『第 3 回よりよい授業のための F D ワークショップ』実施要項

1. 目的

授業の構想・設計・実施・評価に関わる一連の過程をグループワーク形式で体験し、授業実践のために必要な能力を身につけることを目的とします。

2. 対象者

・香川大学

- 1) 一昨年度から今年度にかけて新規採用された、授業担当または担当予定の教員
(授業担当経験 5 年以上の教員，本ワークショップ受講修了者を除く)
- 2) その他参加を希望する教員

・香川県下の S P O D 加盟校
参加を希望する教員

3. 日程

平成 24 年 9 月 20 日(木)～21 日(金) (1 泊 2 日)
(詳細は別紙日程表のとおり。)

4. 場所

四国電力株式会社総合研修所
(〒761-0113 高松市屋島西町 1850-1 TEL : 087-841-1561 FAX : 087-841-7809)

5. 費用

研修の費用は無料です。

ただし、宿泊・食費等の実費を徴収します。(6,000 円程度)

＊香川県下の SPOD 加盟校の旅費については、各大学・短大・高専でご負担願います。

6. 修了証書

研修修了者には、修了証書を授与します。

7. 主催

香川大学大学教育開発センター

8. その他

この研修会は、SPOD（四国地区大学教職員能力開発ネットワーク）の研修プログラムとして、香川県下の SPOD 加盟校に開放し実施します。

研修会の事務については修学支援グループ及び給与福利グループが担当します。

日程表

■第1日 平成 24 年 9 月 20 日(木)

9:00 までに四国電力株式会社総合研修所に集合

時刻	内容
8:45－9:00	受 付
9:00－9:15	(1) オリエンテーション ・開会あいさつ ・研修の目的・目標の確認 ・スタッフ紹介とお願い
9:15－9:45	(2) アイスブレイキング ・自己紹介 ・グループワーク
9:45－10:15	(3) グループワークⅠ 「学生の考える良い授業と悪い授業」
10:15－10:25	休 憩
10:25－11:10	(4) 講義Ⅰ「シラバスの書き方」 ・目標設定の立て方 ・授業計画の立て方
11:10－12:00	(5) グループワークⅡ「全学共通科目の開発Ⅰ」 ・目標設定 ・授業計画 ・シラバス作成
12:00－13:00	昼 食
13:00－13:50	(6) 講義Ⅱ「様々な授業方法」 ・講義形式のメリット・デメリット ・双方向型授業の方法
13:50－14:00	休 憩
14:00－14:40	(7) 講義Ⅲ「よりよい成績評価のために」 ・成績評価の目的 ・評価の方法と評価対象
14:40－16:10	(8) グループワークⅢ「全学共通科目の開発Ⅱ」 ・授業計画と評価計画
16:10－16:30	休 憩
16:30－18:00	(9) グループ発表Ⅰ「中間発表」 ・授業計画のプレゼン 5分×4 ・質疑応答 10分×4
18:00－19:00	夕 食
19:00－21:00	(10)グループワークⅣ「全学共通科目の開発Ⅲ」 ・授業計画案作成
21:00～	懇親会・入浴・自由時間

2日目 9月21日(金)

時刻	内容
7:30—8:00	朝 食
8:00—10:00	(11)グループワークⅤ「共通教育科目の開発Ⅳ」 ・役割決定 ・授業の練習
10:00—12:00	(12)グループ発表Ⅱ「ミニ授業(導入の10分)」 ・授業紹介 5分 ・ミニ授業 15分 ・討議・検討 10分
12:00—12:30	(13)閉会式 ・グループ作業の振り返り(学んだことは何か?どう実践に活かすか?) ・修了証書授与 ・閉会の言葉
12:30—13:00	昼食(研修の振り返り)

13:00 集合写真撮影・解散

新任教員FDワークショップ

『学生の学びを支援する授業の準備』

開催日

2012年
9/3(月)・4(火)

こんにちの大学では、「教師が教える」教育から「学生が学ぶ」教育へのパラダイム転換が起きています。学生の〈学び〉への意欲をいかに引き出していくか、という視点からの大学の授業に対する考え方が大きく変わろうとしているのです。

このワークショップは、新たに大学の教員となられた方々に、「学生の学びを支援する授業」について理解を深めていただき、今後の授業に役立てていただくことを目標としています。

講師：塩崎俊彦
立川 明
俣野秀典
(高知大学総合教育センター)

高知大学総合教育センター大学教育創造部門 HP
<https://olss.cc.kochi-u.ac.jp/create/>

1日目 2012年9月3日(月) 9:00~17:00

1. オリエンテーション／アイスブレイク
2. グループワーク「良い授業とは？」
3. ミニレクチャー「目標設定と授業計画、シラバスの書き方」
4. グループワーク「共通教育科目の開発①（目標設定と授業計画）」
5. ミニレクチャー「様々な授業形態、それぞれのメリットとデメリット」
6. ミニレクチャー「様々な成績評価、その目的と方法」
7. グループワーク「共通教育科目の開発②（授業計画と評価の方法・スケジュール）」
8. グループ発表「グループワーク中間報告」
9. グループワーク「共通教育科目の開発③（授業の計画・指導案）」

2日目 2012年9月4日(火) 9:00~12:00

10. グループワーク「共通教育科目の開発④（最終発表準備）」
11. グループ発表「新科目の紹介とミニ授業」
12. ふりかえり

高知大学
朝倉キャンパス
共通教育棟
3号館1階
310 STUDIO

会場：高知大学朝倉キャンパス共通教育棟3号館1階310教室

対象者：新任教員（大学での授業担当経験5年未満）および

新たに大学の授業を担当する教員

交流会：1日目終了後

*お申込み・お問い合わせ先

高知大学 総合教育センター事務係
〒780-8520
高知県高知市曙町2丁目5-1
Tel: 088-844-8652
E-mail: y-spod@kochi-u.ac.jp



総合教育センター大学教育創造部門では、授業改善や新たな授業に取り組まれる教員のために、さまざまな支援を行っています。
御相談、申込については、下段のメールアドレス宛にお願い致します。

授業相談／授業コンサルティングのご案内

授業をやっていく上での疑問やお悩みなどのご相談に対応しています。お気軽にお問い合わせください。

また、授業改善のための授業コンサルティングも実施しております。こちらは授業中間期に実施するのが効果的です。下記を目途にお申し込みください。

1 学期 5 月 18 日（金）まで

2 学期 10 月 19 日（金）まで

「学生の反応がいまひとつ」、「授業改善の手順がわからない」などのご相談について、一緒に考え解決していきます。

グループワーク授業 OJT のご案内

本学が取り組んでいるグループワーク型授業について、実際に体験していただきながら、今後の指導のための理解を深めていただくために、当部門では On the Job Training を実施しております。下記の授業に OJT 教員として参加していただき、グループワーク型授業の考え方や進め方などを経験することができます。

OJT 対象授業（1 学期開講分）

OJT 対象授業（1 学期開講分）

- サイエンスリテラシーの化学：月曜 5 時限
- 環境を考える：木曜 4 時限
- 課題探求実践セミナー（自由探求学習）：木曜 4・5 時限（隔週開講）
- 課題探求実践セミナー（学びを創る）：金曜 4 時限
- 課題探求実践セミナー（自律協働入門）：金曜 5 時限

*お申込み・お問い合わせ先

高知大学 総合教育センター事務係
〒780-8520
高知県高知市曙町 2 丁目 5-1
Tel: 088-844-8652
E-mail: y-spod@kochi-u.ac.jp

平成 24 年度高知大学セミナー表

日 時	場所	プログラム名	講 師
9月3日（月）～ 9月4日（火）	9:00 ～17:00 310	学生の学びを支援する授業の準備 (新任 FD ワークショップ)	塩崎俊彦・立川明・俣野秀典 (総合教育センター)
9月6日（木）	13:30 ～15:30 未定	講義に小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン ～考え方と進め方～ <秋季 FD セミナー>	俣野秀典 (総合教育センター)
9月7日（金）	13:30 ～15:30 310	自習を助ける教材を創る・発信するための PowerPoint&Moodle 入門 <秋季 FD セミナー>	立川明 (総合教育センター)
9月12日（水）	10:00 ～12:00 会議室 3	成績評価とフィードバック～評価の原則から ループリック評価まで～ <秋季 FD セミナー>	俣野秀典 (総合教育センター)
1月30日（水）	13:30 ～16:00 310 (予定)	学生の学びを引き出すためのシラバスの書き方 <春季 FD セミナー>	塩崎俊彦・立川明・俣野秀典 (総合教育センター)
2月12日（火）～ 2月13日（水）	10:00 ～17:00 310	ファシリテーション力養成道場	俣野秀典・塩崎俊彦・立川明 (総合教育センター)
3月21日（木）	13:30 ～16:30 物部	アクティブラーニング ～学生参加型授業のつくり方 <春季 FD セミナー>	立川明 (総合教育センター)
3月26日（火）	13:30 ～17:00 310	初年次科目のためのグループワークの技法 <春季 FD セミナー>	塩崎俊彦・立川明・俣野秀典 (総合教育センター)
3月27日（水）	10:00 ～18:00 310	能動学習支援者必須！ グループワークのための ファシリテーション入門 <春季 FD セミナー>	塩崎俊彦・立川明・俣野秀典 (総合教育センター)

ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ（西四国対象）の開催について

日 時：平成24年9月25日（火）～26日（水）

別添「スケジュール表」参照

場 所：愛媛大学城北キャンパス 愛大ミューズ

【オリエンテーション・TP作成作業等】

教育・学生支援機構会議室（3階）

【個人ミーティング】

教育・学生支援機構ミーティングルーム（3階）等

主 催：四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室（教職員能力開発拠点）

目 的：ティーチング・ポートフォリオを実際に作成してもらう。また、ティーチング・ポートフォリオを多くの教員に作成してもらうために、メンター養成を行う。

参加対象者：SPOD西四国（愛媛県，高知県）加盟校の教員

メンター：秦 敬治（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室副室長，教授）

大竹奈津子（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 助教）

泉谷 道子（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 特任助教）

スケジュール表　－　メンティー用

	1日目（9月25日(火)）	2日目（9月26日(水)）	後　日
8:00AM			
9:00			
10:00	オリエンテーション＋全体コメント及び作業指針	第2回個人ミーティング	第2校原稿提出締切 月　日（　）　時
11:00	TP作成作業	TP作成作業	
12:00	第1回個人ミーティング	意見交換＋昼食	メンターより メールにてコメント 月　日（　）　時
1:00PM	意見交換＋昼食	第3回個人ミーティング	
2:00	TP作成作業	TP作成作業	第3校原稿提出締切 月　日（　）　時
3:00			
4:00			
5:00			
6:00		TP披露 修了式	
7:00		修了を祝う会	
8:00			
9:00			
10:00	原稿提出締切 10:00		
11:00			
0:00AM			

愛媛大学「夏季FD・SDスキルアップ講座」概要

1. 動機を高め記憶に残る講義法 ―動機と記憶の理論― (I-017)

日時 8月28日（火）13:00～16:00

場所 愛大ミューズ1階アクティブ・ラーニングスペース2

定員 40名

講師 佐藤浩章（愛媛大学教育企画室）

- 目標
1. 主要な動機づけ理論を説明できる。
 2. 記憶に関する理論を説明できる。
 3. 動機づけ理論と記憶に関する理論を自らの授業で活用できる。

- 内容
1. はじめに：過去のインストラクション分析
 2. 現状分析：演習（マイクロティーチング），振り返り
 3. 動機づけ：動機的重要性，いかにして学生を動機づけるか，学生の一般的動機
 4. 記憶：二種類の記憶，忘却の原因，記憶を促進する要因
 5. 方策立案：演習（マイクロティーチング），振り返り

2. ルーブリック評価入門―ブレない・速い・楽チン成績評価のススメ― (I-014)

日時 8月31日（金）13:00～15:00

場所 愛大ミューズ1階アクティブ・ラーニングスペース2

定員 40名

講師 佐藤浩章（愛媛大学教育企画室）

- 目標
1. ルーブリック評価のメリットを説明することができる。
 2. 自らの授業で活用できるルーブリックを作成する。

- 内容
1. ルーブリックとは何か？
 2. なぜルーブリックを使うのか？
 3. ルーブリックをどうやって作成するか？
ルーブリック作成の4段階
第1段階：振り返り（リフレクティング）
第2段階：リスト作成
第3段階：グループ化とラベリング
第4段階：適用
 4. ルーブリック作成（個人ワーク）
 5. ブラッシュアップ（ペアワーク）

3. 講義のための話し方入門(I-011)

日時 8月31日(金) 15:30～17:30

場所 愛大ミューズ1階アクティブ・ラーニングスペース2

定員 40名

講師 小林直人(愛媛大学教育企画室), 飯島永津子(愛媛大学医学部教育協力者)

目標 1. 「学生中心の大学」の実現のために“よい”授業ができるようになる。

⇒ “良い”授業とは？

わかりやすい授業, 知的な緊張感のある授業, 学生が積極的に参加し自ら考える授業

2. 講義をするときに注意が必要な話し方のコツを, 講習中の実習を通して習得し, 習得したことを自分の授業に生かすことができる。

内容 1. イン트로ダクション: 本日のメニュー, 本日の目的と目標

2. 講師が気をつけていること: 学生にとってわかりやすい話し方とは?,

どうしたらわかりやすい話し方ができるか?, 発音しにくい言葉, 区別しにくい言葉

3. 実例を元に演習: 聞き手が理解しやすい話し方, どう話すか?の前に何を話すか?

4. 休憩とストレッチ

5. 外部講師(教育協力者)による発声練習:

大きな声を出すためには?, はっきりと発音するためには?

6. まとめ・セルフアセスメント: あらためて, 「良い」授業とは?

7. 質疑応答

4. Adobe Premiere Elementsを使った動画教材作成法(I-018)

日時 9月4日(火) 13:00～15:00

場所 総合情報メディアセンター第1演習室

定員 40名

講師 二神透(愛媛大学防災情報研究センター)

対象 動画の基本編集と各種形式ファイルへの書き出し, DVDへの書き込み方法を知りたい方

目標 1. Premiere Elementsの基本操作の習得

2. 複数動画の編集操作の習得

3. wmv, mpeg, DVDへの動画像保存と再生

内容 1. はじめに

2. ソフトの起動

3. 画面説明: プロジェクトウィンドウ, モニタウィンドウ, ランタイムウィンドウ

4. 編集: ファイルの貼り付け, ファイルの確認

5. 映像に変化をつける: エフェクトの挿入

6. 録画したビデオの編集: タイトルの編集・保存

7. BGMの挿入

8. 各種形式ファイル書き出し

9. DVDへの書き込み

10. ムービーの再生

5. 障がい学生に対応した授業方法入門編(I-021)

日時 9月7日(金) 10:00～12:00

場所 愛大ミューズ1階アクティブ・ラーニングスペース2

定員 30名

講師 平尾智隆(愛媛大学学生支援センター), 石田隼人(愛媛大学バリアフリー推進室)
太田琢磨(愛媛大学バリアフリー推進室), 原田美藤(愛媛大学 アカデミック アドバイザー)

- 目標**
1. 障がいについての基礎知識をもとに具体的な説明ができるようになる。
 2. 障がいに応じた修学上のニーズを理解する。
 3. 障がい学生支援の方策について工夫ができるようになる。

内容 近年、心身に障がいのある者の大学への入学が増加しています。それにともない、健常学生とは違う様々な修学上の支援・配慮が大学の責任として認識されるようになってきました。しかし、一部の先進的な支援事例を除いては、高等教育機関での障がい学生の修学支援・配慮は、その構成員の理解と実践の上に成り立っているとはまだまだ言い難い状況です。そこで本プログラムでは、先進的な事例をいきなり学ぶのではなくて、障がいとは何かを学び、障がい学生が高等教育機関で学ぶ際にどのような苦労があるのかを実習を通じて体験します。このプログラムは、高等教育機関の構成員1人ひとりが障がいを理解し、意識のレベルでのバリアフリーを実現することを目的とした入門プログラムです。特に、専門的な知識や技術は必要としません。多くの方の参加をお待ちしています。

6. パワーポイント2010基本技・便利技(I-019)

日時 9月7日(金) 13:00～15:00

場所 総合情報メディアセンター第1演習室

定員 40名

講師 二神透(愛媛大学防災情報研究センター)

- 目標**
1. プレゼンテーションと基本操作の習得
 2. 図形・写真・表やグラフの作成・挿入
 3. 動画の挿入・ハイパーリンクの活用
 4. 各種アニメーションの設定と実行

内容 1. 基本操作編：

効果的なプレゼンとは、Power Point2010 の基本、スライド作成の基本

2. 図形・写真・表やグラフの作成・挿入

図形を描こう、写真の加工、表を作成しよう、グラフを作成しよう、
パワーポイントへの挿入

3. 動画の挿入・ハイパーリンクの活用：ハイパーリンクとは、動画の挿入

4. 最終調整、資料準備編：スライドのデザイン、スライドショーの設定、
配布資料の作成

5. プレゼンテーション実行編：

スライドショー、動作設定ボタンの利用、アニメーション

7. Eラーニング入門(I-008)

日時 9月7日(金) 15:30～17:30

場所 総合情報メディアセンター第1演習室

定員 40名

講師 平田浩一（愛媛大学教育学部），佐々木隆志（愛媛大学総合情報メディアセンター）

- 目標
1. Eラーニングソフト Moodle を体験する。
 2. Eラーニングで何ができるかを知る。
 3. Eラーニングのコース作成法を学ぶ。

- 内容
1. Moodleとは
 2. コースへのログイン
 3. コンテンツ（文書&動画）のアップロード？
 4. ファイルの取り扱い，ファイル名についての注意
 5. フォーラム（掲示板）によるディスカッション
 6. レポート課題の提出
 7. 小テストの作成と実施？
 8. 採点と成績（評定）の管理？
 9. メールの送信（クイックメール）
 10. ログの確認

8. 大人数講義法の基本 ―遠隔配信プログラム―(I-013)

日時 9月11日（火） 15:30～17:30

場所 愛大ミューズ1階アクティブ・ラーニングスペース2

定員 40名

講師 小林直人（愛媛大学教育企画室）

- 目標
1. 「学生中心の大学」の実現のために“よい”授業ができるようになる。
- ⇒ “良い” 授業とは？

- わかりやすい授業，知的な緊張感のある授業， 学生が積極的に参加し自ら考える授業
2. 様々な授業スキルを実際の体験を通して習得し，習得したことを自分の授業に生かすことが出来る。

- 内容
1. はじめに 敵を知り己を知る
 2. 「授業スキル」のいろいろ
 3. 参加/体験型授業の例：グループワークを経験する
 4. 「キーワード」を明示する
 5. 休憩とストレッチ
 6. 「板書」の基本テクニック
 7. 「プリント」の基本テクニック
 8. 「コミュニケーション」の基本テクニック
 9. まとめとセルフアセスメント：あらためて，「良い」授業とは？

高知大学「秋季FDセミナー」概要

1. 講義に小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン-考え方と進め方-(Y-004)

日時 9月6日（木）13:30～15:30

場所 高知大学（場所未定）

定員 30名

講師 俣野秀典（高知大学総合教育センター）

- 目標
1. グループでの活動による学習の効果を説明できる。
 2. 協同的な学習活動を生産的なものにするための条件（要素）について二つ以上説明できる。
 3. 学生を参加させるための技法を目的に応じて選択できる。

- 内容
1. アイスブレイクの基本
 2. 小グループ・ペア学習／能動的学習の効果
 3. 学生を参加させるための要素・技法
 4. 授業等への適用例
 5. 学習課題の組み立て方
 6. 振り返り

2. 自習を助ける教材を創る・発信するための PowerPoint&Moodle 入門 (Y-008)

日時 9月7日（金）13:30～15:30

場所 高知大学共通教育棟3号館1階310教室

定員 30名

講師 立川明（高知大学総合教育センター）

- 目標
- PowerPoint資料をいろいろなファイル形式で保存する方法を知る。
Moodleの基本的取り扱いを知る。

内容：

- ・レクチャーと実習「プレゼンテーションの工夫」プレゼンテーション資料を作成するために必要な事柄、実際にプレゼンテーションする上で注意すべき点を学びます
- ・レクチャーと実習「音声付きPowerPoint資料の作成」
- ・レクチャーと実習「様々な保存方法」
- ・レクチャーと実習「Moodleへのログイン」
- ・レクチャーと実習「コース作成」
- ・レクチャーと実習「Moodleへのファイルアップロード」
- ・レクチャーと実習「Moodleでの資料閲覧」

PowerPointを使ってナレーション入り資料を作成し、pdfファイル形式で保存した物を Moodle で公開するための一連の操作を実習します。

3. 成績評価とフィードバックー評価の原則からルーブリック評価まで(Y-003)

日時 9月12日(水) 10:00～12:00

場所 高知大学総合研究棟会議室3

定員 30名

遠隔申込み校(香川大学・松山東雲女子大学)

講師 俣野秀典(高知大学総合教育センター)

- 目標
1. 成績評価の意義と目的を説明することができる。
 2. 到達目標にあわせた評価の方法・基準を設定・開発できる。
 3. 適切なフィードバックを行うことができる。
 4. 客観的かつ厳格な成績評価を心がける。

- 内容
1. 背景
 - ・厳格な成績評価
 - ・近年の高等教育における議論
 2. 成績評価
 - ・評価の意義と目的
 - ・診断的・形成的・総括的評価
 - ・評価規準と評価基準
 - ・評価の手順・流れ
 - ・さまざまな成績評価の方法
 3. ルーブリック評価
 - ・ルーブリックとは
 - ・ルーブリックの有効性
 - ・国内外におけるルーブリックの例
 - ・ルーブリック作成ミニ演習
 4. フィードバック
 - ・フィードバックの意義と目的
 - ・フィードバックを促す方法
 - ・大人数講義でのフィードバック例
 5. まとめ

教える仕事に就きたい大学院生のためのワークショップ実施要項

1. 主 催

愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室
(事務局:愛媛大学 教育学生支援部 教育企画課 能力開発室)

2. 期 間

平成24年9月22日(土)～23日(日)

3. 場 所

愛媛大学城北キャンパス愛大ミューズ内
〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番

4. 参加対象者

将来、初等・中等教育や高等教育機関等で教える仕事に就きたい大学院生

5. 参加費

3,000 円(食費(一日目夜、二日目昼)、懇親会費)*愛媛大学までの交通費は含みません。
(宿泊については、ご希望があればご紹介いたしますので事務局までご連絡ください。)

6. 定員

30名

7. 実行委員

愛媛大学 教育学生支援機構 教育企画室員

8. ワークショップの目的

授業など教える仕事をするにあたって必要となる基礎的な知識と技術を学びます。具体的には、教え方のデザインに関わる一連の過程をグループ作業として体験し、参加者相互の話し合いを経てインストラクション・スキル、コミュニケーション・スキルを身につけます。

また、後輩指導のコツについて学び、作成した授業プランの発表を通して、プレゼンテーションスキルを身に付けます。

9. ワークショップの目標

1. 教え方の基本について説明ができるようになる。
2. 大人の学習の動機づけについて説明ができるようになる。
3. 自分の考えや知識を適切に伝えることができるようになる。
4. メンタリングについて説明ができるようになる。

10. 研修形態

- 1) 体験型研修です。複数のセッションに分かれて、ミニ講義とグループ作業を繰り返します。
- 2) 異なる大学・研究科の大学院生が意見交換をすることで、学習効果を高めます。

11. その他

1. 研修が長時間に渡りますので、普段着でお越しください。
2. 食事代等の 3000 円については、当日会場にて一括で徴収させていただきます。
3. 当日、カメラとビデオカメラでの撮影を行うことがありますのでご了承ください。

12. 本件に関する問い合わせ先

教育企画室 外線番号 (089)927-8922 内線番号 8929
担当者 大竹奈津子

13. プログラム日程

1 日目プログラム日程

時刻	内容
13:00ー13:15	(1) オリエンテーション ・研修の目的・目標の確認 ・スタッフ紹介とお願い
13:15ー13:45	(2) アイスブレーキング ・自己紹介 ・グループワーク
13:45ー14:05	(3) グループワークⅠ 「学習意欲を促進する要因とは？」
14:05ー14:55	(4) 講義Ⅰ「セミナーの作り方」 ・教え方の基本
14:55ー15:30	(5) グループワークⅡ ・目標設定 ・授業プランの作り方
15:30ー16:10	(6) 講義Ⅱ「成人学習論」 ・動機づけ
16:10ー16:20	休 憩
16:20ー17:00	(7) 講義Ⅲ「メンタリングの基本」 ・メンタリングについて ・よいメンターとは
17:00ー18:00	(8) グループワークⅢ ・授業プラン作成 ・授業プランの評価作成
18:00ー19:00	夕 食
19:00ー21:00	(10) グループワークⅣ ・授業プラン作成 中間提出
21:00ー22:00	交流会

2 日目プログラム日程

時刻	内容
9:00ー10:00	(12) 講義Ⅳ「効果的なプレゼンテーションの方法」 ・論理的に話すコツ ・魅せるプレゼンの方法
10:00ー12:00	(13) グループワークⅤ ・授業プラン作成
12:00ー13:00	昼 食

13:00－14:00	(13) グループワークⅥ ・ 発表練習
14:00－15:30	(14) グループ発表 ・ 授業プラン発表 8 分 ・ 討議・検討 20 分
15:30－16:00	(15) 閉会式 ・ グループ作業の振り返り（学んだことは何か？どう実践に活かすか？） ・ 閉会の言葉 ・ 記念撮影

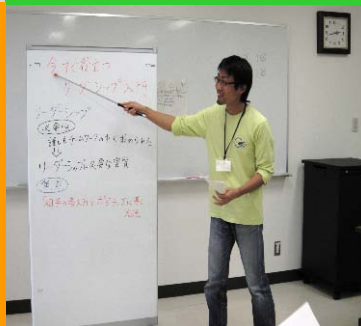


Team Work

Presentation



Instruction



Communication

教える仕事に就きたい 大学院生のためのワークショップ

日時 9月22日(土)～23日(日) **申込締切** 9月7日(金)
一日目:13時集合20時半、二日目:9時集合16時 終了予定 定員30名のため先着順となっております

●会場

愛媛大学城北キャンパス 愛大ミュージズ内

●対象者

- ①将来、初等・中等教育や高等教育機関等で教える仕事に就きたい大学院生
- ②プレゼンテーション能力や後輩指導スキルを高めたい大学院生

●内容

1. オリエンテーション
2. 教え方の基本
 - ・目標設定と授業プランの立て方
 - ・授業プランの書き方
3. 成人学習論
 - ・動機付け
4. メンタリングの基本
 - ・メンタリングの基礎知識
 - ・後輩指導のコツ
5. 効果的なプレゼンテーション方法
 - ・論理的に話すコツ
 - ・魅せるプレゼンの方法
6. 授業プランのプレゼン実践
 - ・授業プランの説明
 - ・他グループからのコメント
7. 振り返り
 - ・フィードバック
 - ・よりわかりやすい“教える”とは

●参加者の声

- ・研究発表の時、授業の時など、私生活でも、フレームを持って人に伝えるべきことを正確に伝える必要があるときに有効な知識やスキルが学べた。
- ・教える仕事に関する不安が少し解消され、どう指導すればいいか、考えるのが楽しみになりました。
- ・同じ院生同士で、なおかつ分野や大学の異なる方との交流ができたので、貴重だと思うし、本当に楽しく取り組むことができた。
- ・授業プランを提出し、その後改善点を指摘していただきありがとうございました。その視点で見ることによって、はじめて自分たちが満足できるプラン作りができたと思います。初心者である自分たちを導いてくれて感謝しています。
- ・内容が実践的だった。
- ・サークルの後輩がよく自分のところへ相談に来るのでメンタリングはすぐに実践できると思った。

申込先・問合先 : 愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室

Email: info@iec.ehime-u.ac.jp Tel: 089 (927) 8922 (担当: 大竹)

平成24年度大学人，社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅡ）
実施要項

1. 目 的

高等教育機関の職員として一般的に求められている広汎な素養を習得することを目的とする。

2. 内 容

大学人，社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅡ）のうち，1つの研修科目を実施する。

・情報科学応用編「Access」

（Microsoft Office Access 2010の活用方法を，パソコンを用いた演習を交えて習得します。）

3. 対象者

OA事務中級職員（業務で多数のExcel形式の表，データや帳票等を使用している方），職位不問

4. 期 間

平成24年9月13日（木）～9月14日（金）

5. 場 所

愛媛大学総合情報メディアセンター4階（第6演習室）

6. 日 程

別紙「研修日程表」のとおり

7. 担当講師

Winスクール校 黒田 伸仁 氏
 陣内 恭子 氏

8. 受講定員

30名

9. 修了証書

研修を修了した者には修了証書を交付する。

10. 主 催

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD），愛媛大学

公開シンポジウム

学習意欲を高める 授業とカリキュラムのデザイン

～高等教育の質保証のためのインストラクショナルデザイン～

日 時

2012/8/1(水)14:00～17:30

場 所

愛媛大学城北キャンパス
総合情報メディアセンター 1Fメディアホール参加費
無料

参加対象者

高等教育機関の教職員、一般

主 催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室(教職員能力開発拠点)

FDが義務化され、各大学では教育改善を目的とした様々な取組が行われています。高等教育機関において、教育の質保証のためには、学習をトータルに支援するデザイン（設計）が求められます。

本シンポジウムでは、学習意欲（モチベーション、動機づけ）を高めるために開発された「ARCSモデル」の提唱者であるケラー教授と、日本のインストラクショナルデザイン（教育設計）研究の第一人者である鈴木教授をお招きして、学習をトータルに支援する理論と実践について講演いただきます。教育機関が組織として成果をあげるためにどのようなアプローチで授業とカリキュラムを設計すればよいのか。学習の最大の効果を発揮するためにどのような工夫や学習者への働きかけが可能なのか。高等教育の質保証にインストラクショナルデザインとARCSモデルがどのように影響を及ぼすのか。基調講演、パネルディスカッションを通して、これらの課題を探究していきます。高等教育機関において教育に関与する全ての皆様のご参加をお待ちしております。

プログラム

公開シンポジウム(14:00～17:30)

- ◆開会挨拶 (14:00～14:10)
- ◆趣旨説明 (14:10～14:15)
- ◆基調講演1 (14:15～15:15)
『組織として教育成果をあげるための
授業とカリキュラムのデザイン』
鈴木克明 教授 (熊本大学社会文化科学研究科
教授システム学専攻長)
- ◆基調講演2 (15:15～16:15)
『最大の学習効果を発揮するための授業デザイン
(ARCSモデルとその実践)』
ジョン・ケラー 名誉教授(フロリダ州立大学名誉教授)
- ◆パネルディスカッション (16:35～17:15)
- ◆質疑応答 (17:15～17:25)
- ◆閉会挨拶 (17:25～17:30)

講師



鈴木 克明 教授

Katsuaki Suzuki
(熊本大学社会文化科学研究科
教授システム学専攻長)

インストラクショナルデザインを日本に導入した先駆者。
日本初のeラーニングの専門家をeラーニングで育成するインターネット型大学院を創設、専攻長に就任された。



ジョン・ケラー 名誉教授

John M. Keller
(フロリダ州立大学名誉教授)

ARCSモデルの提唱者。
ARCSモデルは、学習意欲の問題を見定め対策を立てるためのシステム的なモデルとして名高く、世界50ヶ国以上で研究と応用が進められている。

※プログラムの詳細は、裏面をご覧ください。

本件についての問い合わせ先

愛媛大学 教育学生支援部 教育企画課 教育企画チーム
TEL 089-927-9154 E-mail kiyoiku@stu.ehime-u.ac.jp

学習意欲を高める授業とカリキュラムのデザイン

～高等教育の質保証のためのインストラクショナルデザイン～

プログラム

- ◆開会挨拶（14:00～14:10）
柳澤 康信 学長（愛媛大学）
- ◆趣旨説明（14:10～14:15）
小林 直人 教授（愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室長）
- ◆基調講演1（14:15～15:15）
『組織として教育成果をあげるための
授業とカリキュラムのデザイン』
鈴木 克明 教授（熊本大学社会文化科学研究科教授システム学専攻長）
- ◆基調講演2（15:15～16:15）
『最大の学習効果を発揮するための授業デザイン
（ARCSモデルとその実践）』
ジョン・ケラー 名誉教授（フロリダ州立大学名誉教授）

※ケラー先生の講演進行は英語で行われます。しかし、スライド、配布資料などは翻訳します。

ー休憩及び質問票の回収（16:15～16:35）ー

- ◆パネルディスカッション（16:35～17:15）
【パネリスト】
ジョン・ケラー 名誉教授（フロリダ州立大学名誉教授）
鈴木 克明 教授（熊本大学社会文化科学研究科教授システム学専攻長）
【ファシリテーター】
佐藤 浩章 准教授（愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室副室長）
- ◆質疑応答（17:15～17:25）
- ◆閉会挨拶（17:25～17:30）
松本 長彦 理事・副学長（愛媛大学）

案内図



主な交通機関

JR松山駅から

- ・伊予鉄道市内電車
環状線①(古町方面行き)「赤十字病院前」下車
- ・伊予鉄バス
東西線「愛媛大学前」下車

松山市駅から

- ・伊予鉄道市内電車
環状線②(大街道方面行き)「赤十字病院前」下車
- ※駐車スペースはありませんので、公共の交通機関の利用をお願いいたします。

申込み方法

□事前申込み制(定員:100名)

- 愛媛大学教育企画課教育企画チーム(kiyoiku@stu.ehime-u.ac.jp)に以下①～⑤をメールで送付してください。
(申込み期限:平成24年7月27日(金)17時)。

①ご氏名 ②ご所属・部署名 ③役職名 ④お電話番号 ⑤メールアドレス

※愛媛大学では、個人情報の保護に努めております。ご記入いただいた個人情報は、教育企画課で管理し、シンポジウム参加に関する確認・連絡及び受講者名簿などの作成以外には使用しません。

今後のネットワークコア運営協議会の開催について（案）

第5回（平成24年10月2日（火）13:00～14:30） ※遠隔会議

（議題案）

- ・SPODフォーラム2012の総括
- ・SPODフォーラム2013の日程等の検討
- ・平成24年度予算の執行状況報告（中間報告）
- ・平成25年度事業計画（案）の検討
- ・平成25年度予算計画（案）の検討

第6回（平成24年11月13日（火）13:00～14:30） ※遠隔会議

（議題案）

- ・平成24年度事業の実施状況報告（中間報告）
- ・事業評価委員会からの指摘事項に対する対応状況報告
- ・研修プログラムガイド2013の作成要領の検討

第7回（平成24年12月中下旬開催） ※愛媛大学開催

（議題案）

- ・平成25年度事業の実施内容等の検討
 - ・SPODフォーラム2013の実施内容等の検討
 - ・ネットワーク総会，FD・SD分科会，事業評価委員会の実施方法等の検討
- ※FD・SD専門部会同日開催

第8回（平成25年1月29日（火）13:00～14:30） ※遠隔会議

（議題案）

- ・平成24年度SPOD事業における各活動の総括

第9回（平成25年3月上旬開催） ※愛媛大学開催

（議題案）

- ・ネットワーク総会における審議内容等の検討
- ※FD・SD専門部会同日開催